

北九州市上下水道事業基本計画2030(素案)に対する上下水道事業検討会構成員意見及び修正箇所

ページ	構成員意見	修正箇所	修正内容
1	災害名を「〇年〇月～」にした方がいいのではないかとあるが、豪雨は地域を入れなくてよいのか。	「策定の経緯」の災害名（熊本地震）  【修正前】 ・・・さらには熊本地震、平成29年7月九州北部豪雨、平成30年7月豪雨、令和元年房総半島台風及び令和2年7月豪雨の発生により災害対策の重要性が・・・	災害名は気象庁発表の災害名に統一。（平成28年熊本地震。（豪雨については、気象庁発表資料に地域名がないものは、地域名は追記しない））  【修正後】 ・・・さらには平成28年熊本地震、平成29年7月九州北部豪雨、平成30年7月豪雨、令和元年房総半島台風及び令和2年7月豪雨の発生により災害対策の重要性が・・・
16	「連携を強める必要がある」とあるが、必要があるとする根拠が不明。	「職員数の減少と技術継承」にかかる現状・課題  【修正前】 このような状況のなか、より効率的な組織体制とするために、・・・本市の外郭団体である（株）北九州ウォーターサービスや地元企業との連携を強める必要があります。	本文を補足  【修正後】 このような状況のなか、より効率的な組織体制とするために、・・・本市の外郭団体である（株）北九州ウォーターサービスや地元企業と連携することで、それぞれが培ってきた技術力やノウハウを維持していく必要があります。
23・24	H12に整備したものがR22に40年経過することを強調するためには『昭和56年度から平成12年度にかけて、現在の水道管延長4,610kmのうち、全体の約4割(1,870km)の整備を行ってきました。』と記載の方がよいのではないかと。（下水も同様）	水道施設・下水道施設の経年状況説明文  【修正前】 ○水道施設 浄水場や取水場、ポンプ場などについては、約6割の施設を昭和50年度までに整備しており、管路については、昭和56年度から平成12年度にかけて、多くの整備を行ってきました。  ○下水道施設 昭和46年度から平成2年度にかけて下水道管渠、浄化センターやポンプ場など、多くの下水道施設の整備を行ってきたため、・・・	本文を修正（下水も同様）  【修正後】 ○水道施設 管路については、昭和56年度から平成12年度にかけて、現在の水道管延長4,610kmのうち、全体の約4割(1,870km)の整備を行ってきました。また、浄水場や取水場、ポンプ場などについては、約6割の施設を昭和50年度までに整備しています。  ○下水道施設 昭和46年度から平成2年度にかけて、現在の下水道管渠延長4,655kmのうち、全体の約6割(2,716km)の整備を行ってきました。また、浄化センターやポンプ場など、平成2年度までに多くの下水道施設の整備を行ってきたため、・・・
27	粉末活性炭処理で100%除去は難しいので、誤解のないよう表現の変更が望ましい。	かび臭対策にかかる、これまでの取組  【修正前】 粉末活性炭を注入してかび臭物質を吸着させて除去しています。	本文を修正  【修正後】 粉末活性炭を注入してかび臭の軽減に努めています。
32	6-2国際貢献の最後の行は、「特に」を加えてはどうか。	国際貢献についての説明文  【修正前】 ・・・「SDGs」の17のゴールの一つに「安全な水とトイレを世界中に」が掲げられており、上下水道局はこの目標達成に向けて取り組んでいます。	本文を修正  【修正後】 ・・・「SDGs」の17のゴールの一つに「安全な水とトイレを世界中に」が掲げられており、上下水道局は特にこの目標達成に向けて取り組んでいます。
33・34	地元企業によるカンボジアでの事業がJICA中小企業・SDGsビジネス支援事業に採択されているので、上下水道局も連携して、海外展開を支援していることを示した方がよい。	すいどうコラム「プノンペンの奇跡」  【修正前】 現在でも、カンボジアの水道行政を所掌する工業科学技術革新省水道総局の職員育成や省令等の基準作成指導など、水道行政の能力強化に向けた技術協力を本市が続けています。	地元企業と連携した取組を記載  【修正後】 本市ではカンボジアでの技術協力を継続していますが、最近では、地元企業が主体となり、JICA（国際協力機構）等の支援メニューを活用した事業を進めるなど、新しい動きも出ています。

北九州市上下水道事業基本計画2030(素案)に対する上下水道事業検討会構成員意見及び修正箇所

ページ	構成員意見	修正箇所	修正内容
34	SDGsの推進だけではなく、市内水ビジネスの発展の視点を入れた方が良いのではないかと。	国際貢献の課題のポイント 【修正前】 ・・・「SDGs」の17のゴールの一つである「安全な水とトイレを世界中に」の達成に向けて、引き続き取り組んでいく必要があります。	本文を修正 【修正後】 ・・・「SDGs」のゴールの一つである「安全な水とトイレを世界中に」の達成に向けて、 <b>国際技術協力を引き続き取り組むとともに、地元企業とも連携しながら、海外水ビジネスを推進・支援していく</b> 必要があります。
38	水道ビジョンと新水道ビジョンでは、安全・持続・強靱・環境・国際がキーワードであるため、現在記載がない「持続」を将来像7などに追加してはどうか。	将来像7の説明文 【修正前】 健全経営を維持していく	「維持」ではなく、「持続」に修正 【修正後】 健全経営を <b>持続させていく</b>
43	重点整備地区の設定イメージ図は、重点整備地区以外整備しないと誤解される可能性があるため、ブロック分けにせず、輪郭をグラデーションにした方が良い。	「浸水被害の最小化」の重点整備地区の設定イメージ 【修正前】 	図をブロック分けからグラデーションに修正 【修正後】 
53	最初の2行に、市内水ビジネスの発展に寄与することも付加した方が良い。	「重点施策4-2 本市の技術力・経験を生かした国際貢献」の説明文 【修正前】 「SDGs」の17のゴールの一つである「安全な水とトイレを世界中に」の達成に向けて取り組んでいくとともに、国際貢献を通じて、本市職員の技術力の向上を図ります。	水ビジネス等の文言を追加 【修正後】 「SDGs」のゴールの一つである「安全な水とトイレを世界中に」の達成に向けて、 <b>地元企業とも連携しながら、海外水ビジネスを推進・支援していく</b> とともに、国際貢献を通じて、本市職員の技術力の向上を図ります。
55	上下水道モニター会議の写真を掲載してほしい	「効果的な広報・広聴活動の推進」の写真等 【修正前】 広報紙・イベント（エコライフステージ）への参加を掲載	モニター事業の写真を追加 【修正後】 広報紙・イベント（エコライフステージ）への参加 <b>に加え、モニター事業（勉強会・浄化センター見学のようす）を追加</b>
57	16ページ「職員数の減少と技術継承」にある問題は、重点施策6-1で解消できるか。6-1は職員数の減少に対して言及がない。	「AI等を活用した技術の蓄積・継承の研究」の説明文 【修正前】 上下水道事業の技術の蓄積や継承を図るほか、新たな発展の可能性を探るため、AIを活用した研究を行います。	職員数の減少に対応するための文言を追加 【修正後】 <b>今後見込まれる職員数の減少に対応するために、</b> 上下水道事業の技術の蓄積や継承を図るほか、新たな発展の可能性を探るため、AIを活用した研究を行います。